ある経済学者の肖像－山崎充教授のキャリアとアイデンティティー

小　島　　茂

Profile of a Japanese Economist: Career and Identity of Professor Mitsuru Yamazaki

Shigeru KOJIMA

ABSTRACT

Professor Mitsuru Yamazaki distinguished himself as an economist specializing in local industries in Japan. As a "star" professor at the University of Shizuoka, he was also quite popular both in the mass media and among students. In 1993, however, he suddenly died at the age of 59.

Why was he so popular? What was he most interested in? What did he want to accomplish in his life? What kind of career did he pursue and how did he develop his identity? In this essay, I explored the answers to these questions in my own way.

I had worked with Professor Yamazaki in urban planning committees for three years. We also co-authored a book, "Three Major Cities in the Shizuoka Prefecture," which makes a comparison of Hamamatsu, Shizuoka, and Numazu, three of the major cities in the Shizuoka Prefecture. In this sense, I may have had opportunities to observe Professor Yamazaki a little more closely than other colleagues of mine. Moreover, I have been contributing a series of cartoons, "Professor Challenge," to the official bulletin of our School and Professor Yamazaki also appeared in the cartoons eight times.

In the essay, I presented the cartoons chronologically to use them as subtitles. I also added facts and episodes related to the cartoons, whereby I tried to conjure up the whole image of Professor Yamazaki as an individual.

はじめに

山崎　充教授は地場産業の研究で数々の優れた業績をあげ、現場感覚をもった経済学者として高い評価を受けていた。と同時に本学経営情報学部の看板教授としてマスコミでも活躍し学生からも圧倒的な人気を集めていた。その教授が59歳で突如他界し、それから一年半が立つ。

山崎教授の人気の秘密はどこにあったのか？多くの役割をこなすなかで、何にもっとも関心があり、自分自身をどのようにとらえていたのか？人生において何をもっとも大切にし、これから何にを達成しようと思っていたのか？　言い換えるなら、山崎教授の人生キャリアはどのようなもので、どのようなアイデンティティー（＝自己規定）の変遷があったのか？　今回は、山崎教授の特集号ということなので、この小論では、こうした疑問点を私ならではの方法で探ってみたいと思う。

わたしは山崎教授に誘われて何度かまちづくりに参加したことがある。また、何年か前に、浜松、静岡、沼津という静岡県の三つの中核都市を比較した「静岡三都論」（静岡新聞社）[1]を共著で執筆した。そんなことから、学部のなかでは山崎教授とは比較的接触が多かったほうかもしれない。さらに、わたしは経営情報学部が出している学部報「The Challenge」で、学部の教官をモデルにしたマンガ「チャレンジくん」を連載しており、山崎教授にも何度が登場してもらった。

そこで、ここでは、山崎教授の登場するマンガを年代順に並べ、それをサブタイトル的に使うことにした。そして、それぞれの箇所でそのマンガにまつわるエピソードや関連する事実を加筆し、全体として、山崎教授の人なりと考えなりの一側面を描きだそうと試みた。[2]

タレント（コーディネーター）

山崎教授はよく「オレは学者じゃなくタレントだよ」と言っていた。「学者の前で話すのはどうもやりにくい。経営者や一般の人たちに話すほうがずっと楽だ」とも言っていた。実際、あちこちの講演会やシンポジュウムに出かけては話をしていたし、またときどきテレビにも出演し、シリーズの「経営茶房」（ＳＢＳ放送）では地元の経営者を相手にレギュラーで対談をしていた。そのせいもあってか、常におしゃれでダンディであった。マンガ①はそのタレントぶりもじったもので、山崎教授はこれを読んで、「オレもとうとうマンガになっちゃったよ」とはにかんでいた。

もっとも、タレントといっても山崎教授の骨頂はコーディネーターにあった。よくパネルディスカッションではコーディネータ役をつとめていたし、地域経済やまちづくりに関する各種委員会や懇談会でも委員長として司会役をこなしていた。そのせいもあって、自分の意見を一方的に述べるというよりも人びとの意見に注意深く耳を傾け、それをまとめひとつの方向にもっていくことに長けていた。「玉の落しどころ」を見極めていた。事実、「時間を見計らって、大勢が賛同するようなところにポンと落とすのがうまいやり方だ」と何回とはなしに言っていたし、「意見を述べる場合、先走りしてはダメで、みんなの半歩先ぐらい行くのが一番よい」というのが山崎教授の持論であった。

人気教授

山崎教授のタレントぶりは大学でも遺憾なく発揮された。「しゃべっても反応がないので、学生に話すのはどうも苦手だ」とときどき弱音を吐いたものの、講義はわかりやすくおもしろいので学生にはたいへん受けていた。講義中しばしば野球の話がでてきて、そういうとき話はいっそう盛り上がるのだった。ちなみに、野球は大の巨人＝長嶋フアンで、長嶋監督の前向きさと明るさと同世代であるということが気に入っていたようだ。

山崎人気はマンガ②でも窺い知ることができる。これは３年生の卒論ゼミへの配属シーンを時代物にたとえて描いたものであるが、このときは、第一回目で、まるで狂想曲のようだった。教官や卒論ルールについての噂やデマが飛び交い、学生たちはパニック状態になった。そんななかで、大勢の学生が山崎教授のところへ殺到し、早く内定を出すよう迫った。困った山崎教授がそのことをポロリと教授会で発言すると、当時の学部長であった林教授が「内定はご法度である」とクギをさした。学部長は来る学生が予想外に少なく、ご機嫌ななめのご様子であった。

なお、山崎教授は卒論ゼミ希望者に日本経済新聞の「経済教室」の文章を要約させ、それでもって選抜していた。「要約させれば、その学生の実力がすぐわかる」というのが山崎教授の考えで、教授自身もそうすることによって文章のコツをつかんだらしい。ひとの書いたもののエッセンスを短時間でまとめるというのは、人のを話の要点をまとめるコーディネーターの仕事とも相通じるものが感じられる。

エコノミスト

山崎教授はアイデンティティーとして自分を学者だとは思っていなかったといえども、エコノミストであるとは自認していた。山崎教授にとって、学者とは難解な専門用語と横文字とコンピューターをもちいて、単純なことを複雑に説明する人種と映っていたようだ。

山崎教授は大学で経済学を専攻したものの、本格的に勉強をしはじめたのはむしろ社会に出てからである。そして、静岡経済研究所時代にエコノミストとしての実績を積み、後に「日本の地場産業」（ダイヤモンド社）[3]で日経経済図書文化賞を授賞することになる。

マンガ③は株を学部の教官人事にたとえたもの

1. "TV PERSONALITY" PROFESSOR

1. Let me begin a lecture on corporate management.

2. Well, frankly speaking, I think it more fun to play golf than to teach corporate management on such a fine day. Don't you agree? Ha ha ha ha.

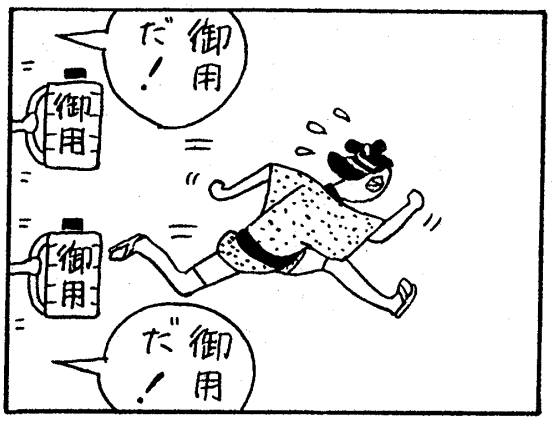
3. (Booing)

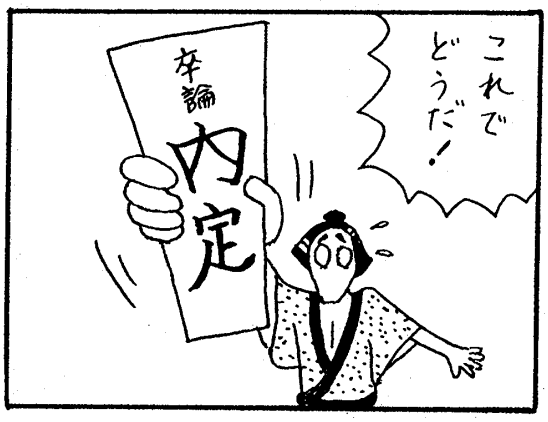
4. Well, I'm not tuned up yet, because I'm not accustomed to a regular lecture style. Let me give a lecture with my own style.

①タレント教授

(1989年4月)

②卒論内定





(1990 年 5 月)

2. PRELIMINARY ANNOUNCEMENT

1. Stop! (The Police)
   Stop! (The Police)

2. Other professors have already made unofficially a preliminary announcement about their seminar students. Why don't you also do so?

3. O.K. O.K. I'll also do that. Here you are! (Graduation Thesis Seminar Preliminary Announcement)

4. Preliminary announcement is forbidden. You'll be arrested.

3. STOCK MARKET

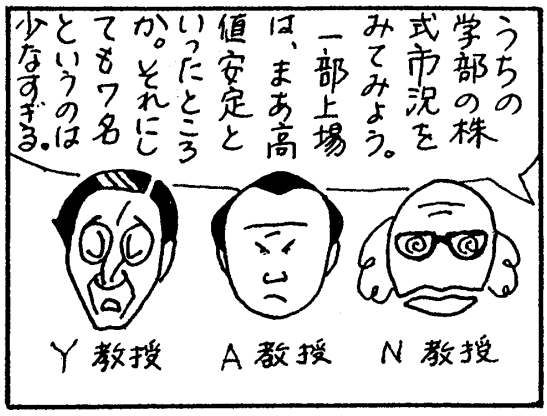
1. The Japanese economy is still suffering from the sudden collapse of the stock market in April. Recently, the stock prices have gone up to a third of the highest point but are still a bit unstable.

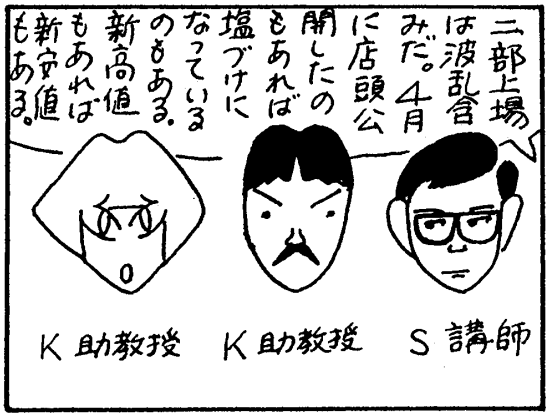
2. Let me take a look at the stock market of our School. The first group (professors) is reatively stable.

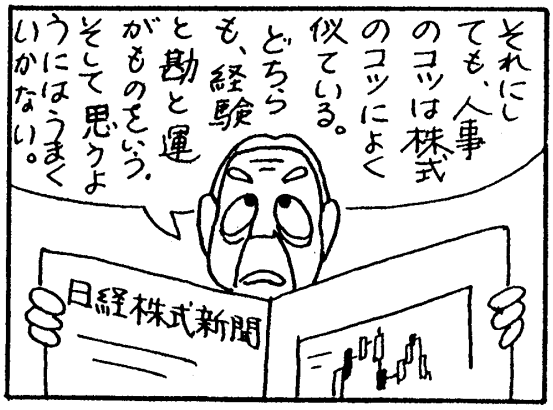
3. On the other hand, the second group (associate and assistant professors) are unstable. Some are newcomers, while others stay intact. Some grow rapidly to break the record, while others decline.

4. In a sense, personal management and stock investment are similar. Experiences, six sense, and good luck play an important role in both, and yet it is hard to succeed in either of them.

③株と人事







(1990年6月)

であるが、経営情報学部をつくるにあたって、林学部長がまず買いにでた株が山崎教授であった。「静岡県には地元出身の山崎がいる。山崎が取れなかったら、学部長は辞退するつもりだった」とまで言い放った。林学部長は当時から日経経済図書文化賞の審査委員で山崎教授の業績をよく熟知していたのだろう。運よく、林教授は山崎教授を説得し、東海大学から引き抜くことに成功したのだった。

なお、山崎教授の当時の勉強方法は一橋大学の篠原三代平教授（当時）の著書を徹底的に読むことからはじまった。そうすることによって、調査・研究のやり方、データの集め方、文章の書き方などを学び、今度はそれを地域経済にあてはめて次々に成果を生み出したのだった。

山崎教授はエコノミストとして豊富な数量データを駆使した。しかし、もっとも得意とするのは全国各地を足で歩き回り、自分の目で見たり現地の人の話を聞いたりして流れを読み取る方法だった。鋭い現場感覚はこうしたフィールドワークから生み出されたのだろう。

ゴルフと温泉と経営者

山崎教授は、マンガ④の通り、ゴルフと温泉大好き人間だった。入院しているときも、見舞い客と退院したらまたゴルフをやろうという話をしていたらしい。また、奥さんと湯治に出かけることも楽しみにしていたようだ。

当然のこととして、山崎教授は静岡県の優れた温泉ホテルや旅館を熟知していた。湯が島の白壁荘、熱海のホテルニューアカオ、稲取の稲取荘など、わたしも毎年のように紹介してもらい宿泊した経験がある。

山崎教授は温泉を楽しむばかりでなくそうしたところの経営者もふくめユニークで魅力的な経営者たちとも親しくしていた。そして、なぜ地方にこうした経営者がいるのかということに深い関心をもち、いつか地方の優れた経営者たちについて本を書いてみたいと思っていた。

ただ、経営者たちから情報を得て論文を書いても、自分が経営者になりたいとも、なれるとも思ってはいなかった。経営者にはモノを見てそれを商売に結びつける才覚が必要だが、自分にはその才覚が欠けていることを山崎教授は自覚していたのである。

地方からの発想

山崎教授は「東京は日本ではない」「東京がバブルの元凶で日本をダメにした」とか「東京の生活水準は地方に比べて低い」とか「地方にもうひとふんばりしてもらいたい」とかいろいろと東京の批判をし地方を励ました。

マンガ⑤にもあるように、「地方のため」、「地方からの発想」こそ山崎教授の原点だったのである。[4] そして、地方に身を置いて思考し、ヒントをえ、全国に向けて発信することを実践し続けたのだった。

山崎教授にとって、地方イコール中小企業でもあった。だから、学生にも大企業よりも元気のいい中小企業に行くことを勧めた。中小企業こそ地方をもりたて日本を支える原動力であるという確信をもっていた。

山崎教授は、さらに、アンチ学歴でもあった。多くの中小企業で、学歴はないが発想がユニークで魅力的な経営者を数多くみてきた。なまじブランド大学へいってしまうと発想が固定してしまい独創的な発想ができなくなる。大卒社員が中卒、高卒の経営者にこきつかわれる光景も多く目のあたりにし「大学を出たってどうってことないよ」と笑っていった。

もっとも、すべての大卒がダメというわけではないようだ。要は、どういう大学生活を送ったかである。山崎教授は「時代を読む経営」[5]（日本評論社）のなかである経営者が語ったエピソードを共感を交えて紹介している。「会社に入って役立たないタイプは、学生時代、学術優等、品行方正、思想穏健だった人間。役立つタイプは、頭は非常によいが、大学時代に勉強以外のことに熱中していたために学校の成績がそれほどよくなかった人間」である、と。教授自身も、案外、後者のタイプだったのかもしれない。

④静岡県

(1991年4月)

4. SHIZUOKA PREFECTURE

1. I'm appointed editor-in-chief of "The Challenge." Today, I'd like you to talk about the Shizuoka Prefecture. Professor Y, you come from this prefecture. So could you please kick off our discussion?

2. Shizuoka has plenty of nature. Without it, there would be nothing there. But thanks to it, we have many hot springs and golf courses.
   I'm happy as long as I can enjoy hot springs and play golf. Ha ha ha ha.

3. I don't like Shizuoka, because it's quite boring to live here. I really want to go back to my hometown Kyoto.

4. Our university, University of Shizuoka, exists because it is located in the Shizuoka Prefecture. It would lose its identity if it were located somewhere else. By the way, recently I wrote a bestselling book. I hope you will get a copy in the bookstore. I'll give you my autograph if you wish.

5. GENERATION GAP

1. You know, people younger than us pre-war generations are totally different in terms of the way of thinking and pattern of behavior. I think that's because they did not have experiences in armed services.

⑤世代差

2. You and I are in the same generation but we are quite different in our appearances and way of thought. Ha ha ha ha.
I'm better-looking than you, but our ways of thinking are totally different. Mine is the "puzzle style" and yours is the "anti-Tokyo style." We may have to divide our generation even into two groups; early and late generations.

3. Until last year there were two aggressive people in our School. So we, a baby boom generation, were powerful, but I feel powerless now. Why don't you join our "baby boom friendship club." You are close to our generation.
No, thank you.

4. I'm the youngest member of the faculty but people don't believe it.
How unfortunate my character is !
I think it has nothing to do with your character. In my case, I'm unfortunate to be seen as younger than my actual age. When I was once invited as a guest lecturer, I was asked whether he hadn't shown up yet.

(1991年7月)

キャリア

山崎教授のキャリアは、大学院から教官コースを辿るふつうの大学人のアカデミック・キャリアとはだいぶ異なっている。大学卒業後、まず静岡銀行に入り、その後、静岡経済研究所に移って研究部長をつとめる。が、研究業績について上司と意見が分かれやがて独立。地域産業経済研究所をつくり所長に就任。それと平行して、専修大学北海道短期大学、２年後に、東海大学の一般教養の経済学の教授も兼ねる。そして、最後に新設の県立大学経営情報学部教授へと幾度かキャリア転換をした。

かって、ある学部秘書が山崎教授の印象をきかれて「エクゼクテイブ」といったことがあった。銀行マンだったせいもあり、外見はたしかにエクザクテイブ風であった。スタイルはよくいつもブランドもののビジネススーツで決め持ち物も高級品が多かった。それも意識的にやっていたようで、いつか自分のスーツを指しながら、「これはいいやつだぞ。なにしろジバンシーだから。しかしブランドものはなんだかんだといっても、やはりそれだけしっかりしているし長持ちする」と言ったことがあったし、高級万年筆をポケットから取り出して、「委員会のときでも、こうしたものをさりげなく持っているだけで周囲の印象がだいぶ違うからな」と言ったこともあった。

しかし、外見とは裏腹に中味は庶民感覚ではなかったか。文章も話言葉もざっくばらん。人情味はあつく難しい話は嫌い。横文字も敬遠し、アメリカの大学に学べという声に対しては「ここはアメリカの大学ではない」とか欧米に見習えという声に対しては「欧米の考えを日本にあてはめるのは間違いだ」などということからみても国際派とはいい難い。そして、タクシーの運転手や喫茶店の店員や料理店のマスターと冗談話をしたりプロ野球を見るのが好きで、温泉につかるのを極上の楽しみとしていた。

山崎教授は銀行時代を振り返って、「オレももし銀行にいたらとっくに出向させられて今ごろはもう定年だよ」と言っていた。しかし、現実には、マスコミや地場産業の世界や地元で売れっ子学者になる。話のわかりやすさ、発想のユニークさもあったが、やはり明るい人柄がモノをいったのだろう。山崎教授が入って来るとその場は急に明るくなるのであった。

山崎教授は、委員会にせよ執筆にせよ講演にせよ、持病をかかえながらも注文をつぎつぎにこなしていった。しかし、注文はいつか体力の限界を越えていた。富士山麓開発のためのふじニュートピア計画事業では山崎教授が委員会の委員長を、わたしが幹事会の座長をつとめていたが、委員会のとき山崎教授が入院で出席できなくなり、急きょ委員長代役を仰せつかったこともあった。マンガ⑥の最後のコマにもあるように、このころから山崎教授は病気がちで入退院を繰り返していた。

フェミニスト

山崎教授は享年59歳であった。マンガ⑦を見て教授は「これじゃ、オレが還暦であることがバレちゃうじゃないか！？」と詰め寄った。数多くの著書の略歴には本人の年齢が公表されているし、なぜという気もしたが、教授はいつも学生との距離を縮めたいと思っていたようだ。学部報用のⓐの似顔絵もこれじゃ「モテない！」といってⓑにかき直したが、これでも「モテない！」と不満げであった。

ⓐ

ⓑ

「オレは（女性に）モテない！」というのが山崎教授の口ぐせであったのとは裏腹に、実際は学部で一番もてたのだった。つまり、モテたいという欲求がそれだけ強いから、つねに身なりに気を使い周囲にもきめ細かな気配りをし、そうした努

⑥就職相談

(1992年4月)

6. CAREER PATTERN

1. What? You want to find a job at the Bank of Shizuoka? What do you want to do then?

2. What? You want to transfer to the Shizuoka Institute of Economics?
   What do you want to do then?

3. What? You want to be a professor at University of Shizuoka and become popular in the mass media? Aren't you talking about me? Don't make fun of me. Ha ha ha ha.

4. Well, I'm now hospitalized because I worked too hard. I think you had better not follow my career pattern.

力があったからこそもてたのかもしれない。

そもそも、山崎教授はフェミニストであった。誉め上手でやさしく女子学生だけでなく一般の女性にも多くのファンがいた。「静岡三都論」の取材のさい何人かの女性を紹介してもらったが、みな知的で個性派美人で山崎教授の人脈の広さには驚かされた。また、渡辺淳一の恋愛小説がお気に入りで、自分でもいつかそうした小説を書いてみたいと思っていた。

なお、くだんのマンガの還暦については、「だから、来年還暦ではなく、還暦が迫っているという表現にしたのですよ。迫るなら55歳でもいいわけですからね」と弁明したら、「そうか、そういう見方もあるか」といって納得したようなしないような表情でひきさがった。そして、最後の最後まで還暦に抵抗する形でこの世から立ち去ったのだった。

家族主義

山崎教授は昭和ヒトケタ生まれのいわゆる会社人間の世代に属し、教授自身も仕事人間であった。しかし、同時に家族もたいへん大事にした。家族でよく一緒にゴルフにいったり食事にでかけたり旅行をしたりした。家族も父親を尊敬し、山崎教授がＮＨＫテレビにはじめて出たとき、家族がテレビにしがみついて父親の写真を取ったという。家族を大切にしたのは、ひとつに自分がひとりっ子で寂しい思いをしたからだろうか。息子さん夫婦に子供が生まれれからはこの孫をこよなくかわいがった。

マンガ⑧にもあるように、奥さんとは高校時代の先輩後輩の関係にあった。富士高時代、奥さんは体操部、山崎教授は柔道部に所属し、いつも同じ体育館で練習をしていた。そして山崎教授が大学を卒業し、静岡銀行に就職したら偶然、同じ職場に奥さんが働いていて驚いた。そして、これもなんかの縁と思い結婚したという。

山崎教授は、おおざっぱでせっかちと自分の性格を分析していた。食べるのも歩くのも早かった。結婚も早かった。いろいろな仕事をかかえ急がざるをえなかったのかもしれない。人生もいき急いでしまったのかもしれない。そのため、「死ぬまでに本を20冊書きたい」「この２、３年で本格的な学術書を書きたい」「小説を書いてみたい」そして「孫の成長を見届けたい」という夢も、残念ながら実現にはいたらなかった。

むすび

これまで、山崎教授のキャリアとアイデンティティーについてみてきた。教授は、銀行マン→調査マン→研究所所長→大学教授とキャリアを転換するなかで、そのアイデンティティーも変遷していったと考えられる。

キャリア転換するひとのなかには、自分に向いていない職業につき、それに気づいて本当のアイデンティティーを求めて180度の転職するひとも少なくない。たとえば、同じ経済学者でマスコミでも活躍中の中谷巌氏（一橋大学教授）もその一例である。大学卒業後、日産自動車に就職したものの、自分は研究者に向いているということに気づき、２年後に会社を辞め、アメリカの大学院へ留学。経済学で博士号を取って、アカデミック・キャリアへ変更した。

その点、山崎教授は銀行に入った時点でまさか自分が大学教授になるだろうとは夢にも思ってなかった。教授は「オレが銀行にいたころは…」といって、ときどきお札を猛スピードで数えるジェスチャーをしたが、それは銀行員時代のたまものだった。教授は銀行員のときは有能な銀行員として、研究所時代は有能な調査マンとして、そして大学教師時代は、学者には馴めなかったものの人気の高い有能な教師としてそれぞれおさまっていた、つまりそれぞれの職業にそれなりに適応していたのである。

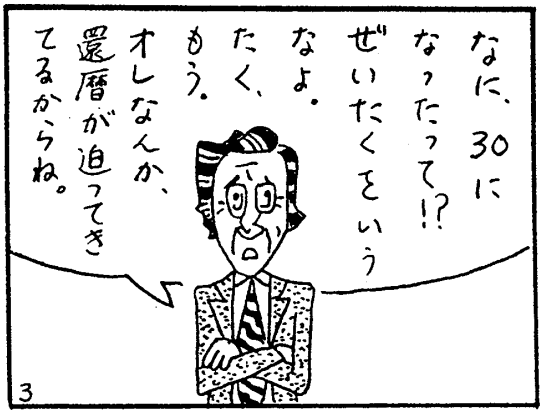
教授は、地場産業の研究において、地場産業は前の産業を苗床に、時代の変遷にあわせ発展していくという「苗床理論」を提唱した。たとえば、浜松の地場産業でみると、もともと主体は繊維産業であり、それを苗床にオートバイや楽器産業が起こり、さらにオートバイや楽器産業を苗床にイノベーションによって光学・ハイテク産業が発展しつつあるという。その点、山崎教授のキャリア

とアイデンティティーも、前のキャリアを土台に、つぎのキャリアが発展的につながっているという意味においてきわめて苗床的で、非連続ではなく発展的に変遷していったと見ることができる。そして、それを可能にしたのは、本人の生まれながらの素質と才能、さらに努力、そして家族のサポートであった。

ボクなんか、いよいよ、今年一年限りで定年退職ですわ。エヘー。退職したら社会人入学してみんなの講義をチェックしに行くかナ？ヒヒヒヒ。それはさておき、
5
昨年まで2年間、学部長をやって、大変しんどかったから、今年はのんびりやらせてもらいますよ。ヒヒヒヒヒ。
6
歳を取るってのは必ずしも悪いことばかりではありません。昨年スペインへ行ったとき、ボクは65前だったけど、65と偽って、バスをタダで乗ってきました。
7
しかし、そうはいっても、ボクももう歳かもしれん。疲れ易くなって。毎年3冊ぐらい本を出してきたけど、今年は2冊ぐらいにしないと…。
8
みなさんね、年齢年齢っていいますけど、年齢なんて人生に関係ありませんよ。若くても老けている人もいれば、歳取っても若々しい人もいるんです。
9
今、人生はクイ掛けの時代です。つまり、60歳の人は60×クイ42歳、40歳の人は40×クイ28歳です。これゆとりの発想でしょ？ハハハハ。
10
？・な、なんで、ここで私が出てくるんですか？
11
ズバリ、女性の年齢は聞くものではありません。サッ早く幕、幕を引いて！
12

(1993年4月)

⑦それぞれの年齢



7. AGES

1. At last, I turned thirty. I feel uneasy. Anybody, please find a bride for me (cry).

2. I'm kidding. To tell the truth, spring is coming near for me. Ha ha ha.

3. What? Age 30? I'm envious of you. I'm approaching age sixty.

4. What? I look younger, did you say? Ha ha ha ha. That's because I'm young in spirit. But we get old soon anyway, ha ha ha ha.

5. I've got to retire this year. When I retire, I may become a student again to check your lectures. Ha ha ha ha.

6. Anyway, I was exhausted during last two years because I was Dean.
   I'll take it easy this year. O.K.?

7. It's not necessarily bad to get old. Last year when I visited Spain, I rode a bus for free, telling the driver that I was over 65. But it's a lie.

8. Well, nevertheless, I may not be young any more, because I get tired easily recently. I have published three books a year but this year two books will be enough for me.

9. You're obssessed by age. Age itself has nothing to do with life.
   Some people look old, even though they are young and vice versa
   (continued to pape 68).

私は29のとき、結婚しました。今は、雅子さんのおかげで、「ラッキー29」になりましたが、その前は25過ぎればクリスマスケーキで、ウチの親も焦って見合いといろいろ勧めました。幸い、同郷の2年上の人とめぐり会えましたが。
5
夫の大学はずっと遠くなので私達は遠距離結婚しています。縄飛びのできる子もふくめ3人の子供は私が育てていますが、夏、冬、春休みは家族がそろいます。まるで、遠洋漁業の家族みたい。でも、亭主普段は留守で元気がいいわね。
6
イヤー。ボクほど長くつき合って結婚したっていうのも珍らしいんじゃないかな。なにしろ、小学校からの幼なじみだから。お互い30になって周囲を見渡したら他に誰もいない。ということで一緒になったんです。
7
家内ですか？家を建てろってプレッシャーが強いですね。でも、教育費がかかって、それどころじゃないですよ。長男はようやく大学に入ってくれましたが、後2人いる。高校生の娘は反抗期でとっても扱いにくいし、困っちゃいますよ。
8
オレが結婚したのは、皆さんよりずっと早く、24のときだね。何せ、早食いだし、根がせっかちなもんだから、結婚も早かった。職場結婚でね。大学を出て銀行に入ったら、高校の後輩がいてビックリ。これも何かの縁と思い決めた。
9
早く結婚するのも良し悪しだけど、良い点は孫の顔が見れることかな。とにかくかわいいからね。女房？女房もいると何だし、いないと困るし、何ともいえないね。最近は、老後のことが心配の種らしい。
10
ボクは、大学出てNTTに入った。NTTは当時、国家公務員上級職だったから、上司の机の上にはお見合い写真の束。皆、そこから次々にあてがわれて、ボクの番のとき、たまたま今の家内だったという訳。順番がひとつ違っていれば、別の人と結婚してたかも。
11
女房？シケタ女房でしてね。こんなことといったら怒られちゃうかな。でも、東京でショッピングやコンサートにでかけたり海外旅行に行ったり気ままにやってますよ。その分、ボクはどんどん原稿を書いて稼がなくちゃ。
12

(1993年5月)

⑧それぞれの結婚

8. MARRIAGE

1. Last time I told you that spring has almost come to me, but that did not come true. I won't ask for a pretty woman any more, so please find me a bride (cry).

2. Well, it's not good to cry. Today, I'd like to ask my colleagues about their marriage, how they found their spouse and how they feel now.

3. My marriage was arranged when I was 30. and I decided to marry a month later. Our families lived near by and I did not see any problem.
   She is a year younger than I. Probably because my single life had lasted so long, I felt at the beginning of my marriage as if I had been living with a stranger.

4. Recently, a baby was born and I finally became a "papa." When I saw the baby for the first time, she looked like an alien. Then she looked like a monkey. Now at last she looks like a human being !

5. I got married at age 29, which is now considered a lucky number thanks to Princess Masako. But before that, after 25, women were considered "unsold" like Xmas cakes. So my parents were in a hurry to arrange a marriage for me. Fortunately, I found my husband who came from the same town and two years older than I.

6. My husband's university is far from here, so we live separately. I'm rasing three children by myself and he joins us for summer, winter and spring vacations. Our family is like that of a fisherman who spends more than a half of the year abroad. It's good that "a husband is out but in good health."

7. My wife and I were classmates in elementary school. We got married at age 30, because we found that only we were single among our friends at that time.

8. My wife? She pushes me hard to buy a house. But I can't afford to do that because of educational expenses for my children. My son managed to enter a college this year but there are still two more to go. My daughter, a highschooler, is now difficult to deal with. She does not speak to me at all.

9. I got married at 24. I tend to be in a rush to do things. I eat quickly and got married quickly.

10. After graduating from college, I found a job at a bank, where, to my surprise, I met with an old friend of mine from my high school years. I decided to get married to her, feeling sort of "karma" in her presence.

11. After graduating from college, I started working for NTT. At that time, NTT officials were "elite" and young women's photos were piled up on their bosses' desk. The photos were assigned to us young officials one after another and my wife's photo happened to be assigned to me. I might have got married to someone else if the photo had been arranged even slightly different.

12. My wife? No good. She enjoys shopping and concerts in Tokyo. She also often takes trips overseas. I have to work hard to make much money for her pleasure.

(continued from page 65)

10. Since our life expectancy grew up to age 80, we should give our age 30 percent discount. For example, a 60-year-old man is 42 years old (= 60×0,7), and a 40-year-old man is 28(= 40×0,7). Don't you think this is a good idea? Ha ha ha ha.

11. Why do I have to show up here?

12. You should not ask a woman about her age. A curtain! Draw the curtain please!

【注】

1. 山崎充，小島茂「静岡三都論」1991、静岡新聞社
2. 本稿は拙稿「チャレンジくんにみる山崎充教授の軌跡」(The Challenge Vol.36. 1993. 11) を加筆・修正したものである。
3. 山崎充「日本の地場産業」1977、ダイヤモンド社
4. この発想は、山崎充著「豊かな地方づくりを目指して」(1992、中央公論社)にもっともよくみられる。
5. 山崎充「時代を読む経営」1988、日本評論社